

第3章 史跡の本質的価値と構成要素

第1節 国史跡鹿児島城跡の本質的価値

国史跡鹿児島城跡の本質的価値は、山城や居館、国内外との活発な交流や近代化の歴史を示す遺構群であり、以下に示す3点に整理する。

1 国史跡鹿児島城跡の構造的特徴

国史跡鹿児島城跡は、鹿児島市街地の中心部に位置し、市街地を取り囲む標高約100メートルから200メートルのシラス台地の南端部に築かれた山城跡である「城山」地区、その南東面の麓にある近世の「居館」地区、「居館」地区及び「城下」地区を取り囲む外堀、東側の鹿児島湾に囲まれた外郭である「城下」地区で構成される。江戸時代を通じて薩摩藩主島津氏12代の居城となった近世城郭であり、山城と麓が一体的に機能した城郭である。

構造的特徴



赤枠・・・「城山」地区

橙枠・・・「居館」地区

青枠・・・「城下」地区

※各色の網掛けは指定範囲

2 国史跡鹿児島城跡の文化的様相

「居館」地区の発掘調査の結果、本丸跡において御殿内部の建物や御角櫓等の建物に伴う坪地業、基礎石列、排水溝等のほか、築山や池といった庭園の遺構、さらに能舞台の橋掛り跡が確認された。また、茶道具のほか、琉球陶器、中国やヨーロッパ製の陶磁器、オランダの文献を参考にして作られたと推測される日時計など、海外との交易によりもたらされた遺物が出土した。

3 国史跡鹿児島城跡の日本の近代化の証左

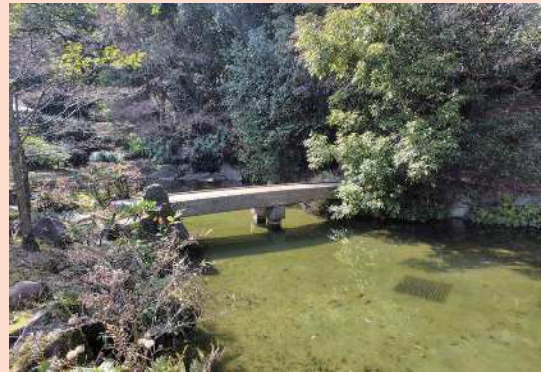
「居館」地区の発掘調査の結果、二之丸跡において御台所跡から糠作りの焚き窯場と考えられるレンガ積み遺構、陶磁器を製造していた建物、御稽古所、水泳場等、第11代藩主島津斉彬による近代化事業の遺構が確認された。

また、明治10年（1877）の西南戦争時に築かれた堡塁跡や堡塁状の遺構が確認されたほか、御楼門周辺の石垣にも砲弾跡、銃弾痕が確認され、付近から多くの銃弾が出土した。国史跡鹿児島城跡は、近代の西南戦争の主戦場の一つでもある重要な城郭である。

文化的様相



本丸にあった庭園



現在も使われている石橋(九阜橋)



本丸跡で確認された能舞台橋掛り跡



ヨーロッパの
書物を参考にし
たと考えられる
石製日時計



鹿児島城下出土
ヨーロッパ産陶磁器

日本の近代化の証左



本丸跡の石垣に残る西南戦争の砲弾・銃弾痕

第2節 国史跡鹿児島城跡の本質的価値に準じる価値

本計画において、「本質的価値に準じる価値」とは、国史跡鹿児島城跡の3つの本質的価値を育んだ「鹿児島城の歴史を示す文書類、考古遺物等」及び「国史跡鹿児島城跡の地質・地形・植生（天然記念物）」である。

国史跡鹿児島城跡の本質的価値に準じる価値の構成要素は以下に示すとおりである。

1 鹿児島城の歴史を示す文書類、考古遺物等

(1) 鹿児島城跡関連文書、城絵図・城下町絵図

国史跡鹿児島城跡で確認された遺構は、関連する古文書や絵図等によりその価値を証明されたものも多い。史跡としての本質的価値に準じる価値「鹿児島城の歴史を示す文書類、考古遺物等」の構成要素として、まず、島津家文書等や城絵図・城下町絵図、明治5年（1872）に撮影された古写真、黎明館等が保管する玉里島津家資料等がある。

表3-1 近世鹿児島城・城下町絵図一覧（小林2025から転載）

No.	図名	年(年代)	所蔵・所収
1	薩藩御城下絵図(鹿児島)	[寛文10(1670)頃]	鹿児島県立図書館
2	鹿児島城絵図控	元禄9(1696)	東京大学史料編纂所
3	正徳三年御城絵図	正徳3(1713)	鹿児島県立図書館
4	薩摩国鹿児島城絵図	宝暦6(1756)	東京大学史料編纂所
5	藩政時代鹿児島市街図	文政4(1821)	鹿児島県立図書館
6	鹿児島御城下明細図	文政4(1821)	鹿児島県立図書館
7a	文政五年鹿児島城絵図	[近世後期]	鹿児島大学附属図書館
7b	御先々代様御手許品より 鹿児島城下絵図	[近世後期]	鹿児島県歴史・美術センター黎明館
8	藩政時代鹿児島市街地図	[天保期頃]	東京大学史料編纂所
9	薩州鹿児島之図	[天保初期]	神戸市立博物館
10	鹿児島城下図	[天保初期]	『日本の古地図』
11a	切絵図[鹿児島絵図(文政前後)]	[天保14(1843)]	『薩藩沿革地図』
11b	鹿児島絵図	[天保14(1843)]	鹿児島市教育委員会
11c	鹿児島絵図	[天保14(1843)]	鹿児島県歴史・美術センター黎明館
11d	鹿児島絵図	[天保14(1843)]	都城島津伝承館
12a	天保年間鹿児島城下絵図	天保14(1843)※	鹿児島市立美術館
12b	天保十四年鹿児島城下絵図	天保14(1843)※	鹿児島県立図書館
12c	鹿児島城下絵図屏風	天保14(1843)※	鹿児島県歴史・美術センター黎明館
12d	天保十四年城下絵図	天保14(1843)※	『薩藩沿革地図』
13	薩州屋形之絵図	弘化2(1845)	鹿児島県立図書館
14	鹿児島見取絵図	[安政5(1858)]	武雄市歴史資料館
15	旧薩藩御城下絵図	[安政6(1859)]	鹿児島県立図書館
16a	鹿児島城屋形及びその周辺図	明治11(1878)	鹿児島市立美術館
16b	成尾常矩城下絵図	明治11(1878)	個人
17	鹿児島城絵図	[近世後期]	臼杵市教育委員会
18	鹿児島図	[近世後期]	聖心女子大学図書館

注1. 鹿児島城御楼門建設協議会・鹿児島県（2016）『鹿児島（鶴丸）城保存活用計画』「絵図等一覧表（1）～（6）」をもとに筆者作成。作表にあたり、年代順にするため一部を入れ替えた。また、『鹿児島の城館』掲載図と追加調査した鹿児島城・城下町絵図を補った。

注2. 城郭を中心に描く絵図には、No.に着色して示している。

注3. No.11aの図題は『薩藩沿革地図』での資料名を補った。

注4. 図中に作成年の記載をもつ図には下線を付し、年代が推定年の絵図には角括弧を付して表記した。なお、No.1には、年代に「頃」を補った。

注5. No.12a～12dの年（※）は、図中の注記の記入年である。

小林善仁2025「近世鹿児島の城下絵図に関する基礎的研究」渡辺芳郎編「近世鹿児島城下町の歴史考古学的基礎研究」2021～2024年度科研費補助金（基礎研究C）成果報告書（課題番号：21K00973）



図3-1 薩藩御城下絵図（鹿児島） 鹿児島県立図書館蔵



図3-2 鹿児島城下絵図屏風 鹿児島県歴史・美術センター黎明館蔵



図3-3 御城山総絵図 東京大学史料編纂所蔵

(2) 国史跡鹿児島城跡関連考古遺物等

発掘調査によって出土した遺物は、指定地に埋蔵されていないため「本質的価値を構成する要素」にはならないものの、国史跡鹿児島城跡の本質的価値を理解する上で重要であることから、史跡としての本質的価値に準じる価値「鹿児島城の歴史を示す文書類、考古遺物等」の構成要素である。

また、「玉里島津家資料」など黎明館所蔵の国史跡鹿児島城跡関係資料についても、出土遺物と同様に国史跡鹿児島城跡の本質的価値を理解する上で重要であるため、本質的価値に準じる価値の構成要素とする。



写真 3-1 出土遺物（左：御楼門の鬼瓦、右：櫓形周辺から出土した西南戦争関連等遺物）

2 国史跡鹿児島城跡の地質・地形・植生（天然記念物）

火山が多い鹿児島には、多くの火砕流堆積物の堆積が確認されている。国史跡鹿児島城跡の山城部分であった「城山」地区は、始良カルデラ噴出物の入戸火砕流堆積物から成るシラス台地である。シラス台地は、上部が平らなため曲輪を形成する平坦面を得やすく、造成が容易で、風雨により斜面は垂直方向に急峻に切り立つ特徴をもつ。「城山」地区では、こうした自然の急斜面を利用した切岸や切土・盛土を用いた大規模な土塁といったシラス台地の特性を活かした普請が行われている。

また、城山の麓に堆積する入戸火砕流堆積物と海成層の城山層との境からは、水が豊富に湧出している。こうした湧水もこの場所が城の立地に選ばれた理由になったと考えられる。

国史跡鹿児島城跡では、享保 8 年（1723）に、城の北側の冷水地区から「城山」地区を掘削して本丸跡裏側の現在の「近衛の水」の地点まで通した冷水用水が開削され、冷水地区の湧水が城内に送水されるようになる。また、国史跡鹿児島城跡では、多くの地点で細く加工した凝灰岩の中央部を削り貫いて接続した石管水道（主に上水）、平らな底石に 2 段以上の石垣状の側石を組みあわせた排水溝、井戸、水を地中から地上に汲み上げる高榦など、様々な水利関係の遺構が確認されている。こうした

水利施設の充実は、シラス台地の地質的特性や火砕流堆積物由来で加工が比較的容易な溶結凝灰岩が豊富に採れるという地形・地質がもたらしたものである。



写真 3-2 シラス台地の急斜面（二之丸裏側）



写真 3-3 近衛の水

また、国史跡鹿児島城跡には、国の天然記念物「城山」の指定範囲が含まれている。天然記念物と史跡の両方で国指定である史跡は全国でも稀であり、国史跡鹿児島城跡の特徴でもある。

「天然記念物及び史跡城山保存活用計画」によると、「城山は、暖温帯の常緑広葉樹が多数繁茂しており、シダ植物や着生植物なども含め500種類以上が確認されており、鹿児島市の中心部にありながら、地域の自然植生を示す稀有な森林植物相が残る、本市にとって大変貴重な資源である。」と位置付けている。

なお、城山の植生については、藩政期に城山として管理されてきたことが保存の契機であるものの、島津家によるクスの植樹のほか、元禄9年(1696)の鹿児島大火などの藩政期に起きた火災、明治・大正期の植樹と伐採、西南戦争や太平洋戦争、昭和27年(1952)の長田町大火、たびたび発生する集中豪雨による崩落などの影響による部分的な二次的遷移を繰り返してきている。



シロヤマゼンマイ



シロヤマシダ

写真 3-4 城山で確認できる主な植物
(天然記念物及び史跡城山保存活用計画)

第3節 国史跡鹿児島城跡の本質的価値以外の要素

本計画において、「本質的価値以外の要素」とは、国史跡鹿児島城跡の本質的価値に関わる要素ではないものの、国史跡鹿児島城跡にまつわる由来を有する文化財等や、現在に至るまでの指定地の歴史を証するもの、及び公園整備に伴う設置物のうち、直接・間接的に史跡の保存活用にも資するものを指すこととする。

1 石仏十三体、行幸記念碑や薩摩義士碑等の石碑、三公銅像等の像

国史跡鹿児島城跡は、近代以降、学校施設等の様々な土地利用を経て現在に至っている。こうした近代以降の土地利用やその場所に後世の人々がどんな価値を見出したかの歴史を示す資料の一つが石碑である。国史跡鹿児島城跡にまつわる由来を有する文化財等であり、国史跡鹿児島城跡を物語る上で広がりをもたせることのできる要素である。



写真3-5 行幸（昭和天皇）記念碑



写真3-6 露国皇太子ニコラス殿下来覧記念碑

2 史跡及び天然記念物の解説板、御楼門、石垣構造の展示物

国史跡鹿児島城跡は、面積が広大であり、また「城山」地区・「居館」地区（指定地内）及び「城下」地区（指定地外）からなる構造的特徴を有すること、指定範囲が天然記念物と重複しているため、史跡及び天然記念物の解説板の内容や設置場所は、県民・市民が国史跡鹿児島城跡を理解する上で必要な要素となる。

御楼門は、平成24年(2012)に民間から復元に関する提言がなされ、古写真など限られた資料をもとに、専門家委員会や技術検討会議等からの意見を踏まえ令和2年(2020)に完成した門である。建設地は県指定史跡（当時）の指定地内だったことから、当該史跡への影響が軽微となるよう、工法の検討や各種試験が繰り返された。国史跡鹿児島城跡の本質的価値の理解につながる、必要な要素である。

現在本丸石垣の前面に設置している石垣構造の展示物については、城跡の石垣に関する一般的な概要と国史跡鹿児島城跡石垣の特徴等に関する展示解説を通して、国史跡鹿児島城跡の本質的価値の理解につながることから、同じく必要な要素となる。



写真 3-7 解説板、御楼門及び石垣構造の展示物

3 黎明館、県立図書館等

鹿児島城下絵図等に描かれた諸施設の跡には、現在、黎明館、県立図書館など多くの公共施設が建てられている。これらの公共施設用地には、石垣や石堀の基礎部分など敷地の区画の跡、あるいは建物の雨落ちや側溝等当時の施設の輪郭を示す遺構などが今後の調査で確認されることが予想される。

また、各館には、国史跡鹿児島城跡に関する出土遺物や文献等、「国史跡鹿児島城跡の本質的価値に準じる価値の構成要素」となる多種多様な資料が収蔵され、維持管理されるとともに、定期的に展示活用されている。



写真 3-8 鹿児島県歴史・美術センター黎明館



写真 3-9 鹿児島県立図書館

4 城山展望台、市道、便益施設等

これらの施設は、公園整備等に伴う設置物等である。史跡の維持管理や整備を目的としたものではないが、現在まで、天然記念物の維持管理、活用や景観の保全等に寄与しており、間接的に国史跡鹿児島城跡の保存活用に寄与する。

また、治山ダムについては、崩落対策の一環として整備されたものであり、崩落を防止するものではないが史跡のき損の拡大防止に寄与する施設である。



写真 3-10 城山展望台



写真 3-11 休憩施設



写真 3-12 頂上の駐車場



写真 3-13 治山ダム

第 4 節 構成要素の特定

国史跡鹿児島城跡の構成要素等について、表 3-2～4 のとおりまとめる。

なお、各分類の考え方について、次のとおり再掲する。

1 本質的価値

国史跡鹿児島城跡の「本質的価値」とは、国史跡鹿児島城跡の「構造的特徴」、「文化的様相」及び「日本の近代化の証左」である。

2 本質的価値に準じる価値

国史跡鹿児島城跡の「本質的価値に準じる価値」とは、「鹿児島城の歴史を示す文書類、考古遺物等」及び「国史跡鹿児島城跡の地質・地形・植生」である。

3 本質的価値以外の要素

国史跡鹿児島城跡の「本質的価値以外の要素」とは、国史跡鹿児島城跡にまつわる由来を有する文化財等や、現在に至るまでの指定地の歴史を証するもの、及び公園整備に伴う設置物のうち直接・間接的に史跡の保存活用にも資するものである。

表 3-2 本質的価値を構成する要素

分類	種別	構成要素
城山地区	本丸、二之丸跡	土塁、曲輪、切岸、空堀、西南戦争の堡塁跡
	大手口	石列地業等の地下遺構、石段、排水溝
	登城道	石段、排水溝、市道に残る枅形
	水利関係	近衛の水、市道城山登山線の湧水
	急峻に切り立つ旧地形	シラス台地を開削したことを示す急斜面等
居館地区	本丸跡	御楼門跡、御角櫓跡、唐御門跡、御殿関連遺構、能舞台関連遺構、大奥跡、九阜橋、本丸御庭の石材、堀、御楼門橋御楼門礎石等、排水溝、石垣（隅欠等）、石垣背面構造、銃弾・砲弾痕の残る石垣、堀、石橋
	二之丸跡	御殿関連遺構、神社跡、外御庭（堀）、御台所跡（レンガ式窯）、石垣、水利施設、探勝園の園地

表 3-3 本質的価値に準じる要素

分類	種別	構成要素
城山地区	本丸、二之丸跡	西郷軍本営跡、植生（天然記念物）
	大手口	—
	登城道	植生（天然記念物）
	水利関係	植生（天然記念物）
	急峻に切り立つ旧地形	地形、地質
居館地区	本丸跡	石垣構造の展示物
	二之丸跡	—
城山・居館共通	城絵図・城下絵図	鹿児島城跡関連文書、城絵図、城下町絵図、錦絵
	発掘調査の出土遺物等	茶道具、陶磁器、石材、瓦、西南戦争で使用された砲弾、銃弾等の出土遺物 黎明館所蔵の鹿児島城跡関係資料